

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 11 日現在

機関番号：13901

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2015～2016

課題番号：15H06257

研究課題名(和文)中国の連環画における日本文学の翻訳と再創作

研究課題名(英文) Translation and Adaptation of Japanese Literature in Lianhuanhua(Chinese Comic)

研究代表者

尹 シセキ (Yin, Zhixi)

名古屋大学・文学研究科・研究員

研究者番号：80761410

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、戦後中国でもっとも広く読まれた大衆的書物、連環画における日本文学、映像、マンガの翻訳と再創作を網羅的に調査したものである。入手可能な作品を購入、複写し、書誌データを作成した上で、「日中友好」をテーマとした連環画作品を分析し、その中で「日本」イメージや、「日中関係」がどのように表象されているかを考察した。また、冷戦という時代の文脈と関連付けながら、そうした表象の同時代的役割を検証した。

研究成果の概要(英文)：This project refers to elucidation how Lianhuanhua (the most widely read comic-books in China from 1940s to 1990s) translated and adapted Japanese Literature, images, manga. I created bibliographic data, and discussed how these works represented "Japan" or "Japan-China friendship". I also examined the relation between these images and the ideology in Cold War.

研究分野：日本文学

キーワード：連環画 日中友好 墨 有吉佐和子 涙血櫻花 東隣女 人到中年 尤勁東

## 1. 研究開始当初の背景

戦後から 1990 年代までの長い間、中国における日本文学の流通とイメージ形成は、中国独特の書籍形態「連環画」を通して実現したことが多い。「連環画」により、多くの日本文学が翻訳、もしくは再創作されたことに対して、網羅的な学術研究はほとんど行われて来なかった。本研究は、こうした状況を踏まえて始めたものである。

1980 年代中国の大衆読者、観客は連環画というメディアを通して、どのような日本文学、映像と出会ったのか。それによってどのような「日本」像が作り上げられたのか。それを解明するために、連環画における日本文学、映像の翻訳と再創作に関する資料整理と、「日本」イメージの形成をめぐる基礎的研究が必要と思われた。

## 2. 研究の目的

連環画による日本文学、映像の翻訳と再創作をめぐる基礎的な調査を実行し、体系的な資料整理と意味づけを行う。その上で、連環画を通して「日本」のイメージがどのように増殖、変容していたかについて、主要な作品から分析する。最終的に、連環画をルートとした日中文化交渉史の一側面を明らかにすると同時に、「日本文学」の枠組みを考え直すことも試みる。

## 3. 研究の方法

本研究は、主に資料収集とテキスト分析を行ってきた。

資料に関しては、絵画連環画雑誌（たとえば『連環画報』）、映画や写真誌（例えば『大衆電影』や『世界知識画報』）、連環画単行本（絵画連環画、映画連環画の両方）を網羅的に調査し、日本の原作から翻訳、再創作された作品と思われるテキストの原本、もしくはデータを収集した。研究期間内では、古書市場や図書館で入手可能なテキストのおおよそ八割をカバーできたと考える。その上、連環画の流通ルート、現在の古書市場の状況、収集家や連環画復刻版専門の出版社の動向についても、歴史的な

流れと最新情報を把握するのに努めた。

テキスト分析については、まず連環画メディア全体における翻訳と再創作の傾向を考察した。それから、どのような対象を通して、いかなる視点と表現によって、どのような「日本」イメージが描かれたかを検証し、1980 年代の連環画に新しく見られた都市風景、人物造形、ファッション・スタイルなどは同時代の日本映画から多大な影響を受けていることを明らかにした。また、「日中友好」ブームという時代背景、日中の民間外交、左派文化人のネットワークと関連付けながら、連環画における「日本人女性」と「日中友好イベント」といった要素に注目し、そのあり方や意味を分析した。

## 4. 研究成果

平成 27-28 年度の研究を通して、目標としていた「資料収集」は概ね達成している。戦後から 1990 年代までの『連環画報』、『富春江画報』をはじめとした連環画雑誌を各地図書館、古書市場で調査し、日本の原作から翻訳、再創作されたと思われるテキストを入手し、分類し整理を行った。その成果として、連環画の作者や翻訳者、原作名、翻訳名、出版社、出版時期、値段、発行部数などを示した資料「日本文学・映画・テレビドラマを原作とした連環画」を、下記「5. 主な発表論文等」の論文とともに、『連環画研究』第 6 号に投稿し、掲載されている。

ほかに、連環画による日本文学の翻訳と再創作には、戦後中国における日本書籍の「内部発行」制度という重要な文脈があった。そのため、戦後中国の「内部発行」による日本書籍の刊行についても網羅的に調査し、その資料をまとめた成果を下記「5. 主な発表論文等」の学会発表を通して公表した。

「テキスト分析」についても、学会発表と論文執筆を通して成果を公開している。下記「5. 主な発表論文等」の論文は、平成 27 年度に連環画『人到中年』を取り上げ、1980 年代の連環画に現れた新たな手法（象徴主義とリアリズムの融合）分析し、同時代の連環画手法が日本映画『君よ憤怒の河

を渡れ』及び高倉健のイメージから大きな影響を受けたことを論じた。

発表 は、日本の原作から作られた連環画に見られる「昔話」、「戦争物語」、「映画と俳優」、「日中友好物語」という四つの類型を抽出し、それぞれの類型における「日本」イメージを提示し議論した。ただ、四つの類型に関する分析をすべて研究期間内に論文として仕上げ投稿するは、時間的に難しかったため、まず「日中友好物語」の「日本」イメージをめぐって詳細な分析を行い、下記「5.主な発表論文」の論文を公表することとした。論文 は、有吉佐和子の小説『墨』や、日中合作映画『さくら』、『涙血櫻花』、京劇『東隣女』などの連環画における「文化外交」表象を取り上げ、絵画連環画、映画連環画（映画、舞台両方から改編されたもの）のメディア的固有性による表現の違いも説明しながら、これらの作品において、日中間を移動する日本人女性が「日中友好」を語る役割を担うものとして描出されているか論証した。その上で、いずれの作品にも共通した、「産む」日本人女性と「産ませる」中国人男性の関係性を、戦前国策映画と対比的なメタファーとして批判的に捉え、戦後左派文化人の日中関係への構想と関連付け、テキストの同時代的な意味を考察した。

なお、「昔話」、「戦争物語」、「映画と俳優」という三つの類型をめぐるとのテキスト分析は、発表 をもとに論文を執筆し、今後順次に『連環画研究』やほかの学会誌へ投稿する予定である。

本研究の研究分野は「日本文学」であるが、資料調査と研究発表、論文執筆を進めていった中で、北海道大学を拠点とした「連環画研究会」（中国文学）との交流を深め、資料交換をしながら、頻りに学術的な議論を行うことができた。連環画に限った知識だけではなく、日本近代文学の研究と中国文学研究の方法、現在の傾向、各地資料の分布、研究者と研究機関の体制などについても、多くの情報を共有してきた。連環画研究会という場を通して、小さい範囲でありながら、日本文学研究と中国文学研究をつなげるネットワークを構築し、分野の境界を越えた知的交流に貢献することができ

たことも、本研究が達成した成果の一つと思われる。

## 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 2 件）

①尹芷汐、連環画『人到中年』の多様なアプローチ-小説および映画と比較して、連環画研究、査読無、5巻、2016.3、22-30

②尹芷汐、文化外交をする女性たち-1980年代の「日中友好」連環画、連環画研究、査読無、6巻、2017.3、12-30

〔学会発表〕（計 2 件）

中国の連環画における日本文学・映像・マンガの改編、連環画研究会、北海道大学、2016.10.1

冷戦下の中国における日本書籍の「内部出版」、21世紀メディア研究会、早稲田大学、2016.11.26

〔図書〕（計 件）

〔産業財産権〕

出願状況（計 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.lit.nagoya-u.ac.jp/~jculture/pg27.html>

## 6．研究組織

### (1)研究代表者

尹シセキ (Yin Zhixi )

名古屋大学・大学院文学研究科・博士研究員

研究者番号：80761410

### (2)研究分担者

( )

研究者番号：

### (3)連携研究者

( )

研究者番号：

### (4)研究協力者

( )